

5 - 1 山崎断層安富観測点における伸縮変化の連続観測 (第 2 報)

Continuous Strain Observation across the Yamasaki fault at Yasutomi Observation Station (2nd report)

京都大学防災研究所 微小地震部門
Microearthquake Research Section,
Disaster Prevention Research Institute,
Kyoto University

山崎断層における伸縮計による連続観測については、本誌第 17 号にくわしく述べてあるので参照されたい¹⁾。本報告はその第 2 報である。前回は 1976 年 9 月上旬までの観測結果であったが、今回は、1976 年 12 月末までの伸縮および雨量観測の結果を第 1 図に示す。4 本の曲線は、挿入小図に示した各点間のひずみ変化で、(2 - 3) および (10 - 11) は粘土をはさむ破碎帯を横切る成分、(3 - 4) および (9 - 10) は破碎帯を含まない岩盤内の成分である。

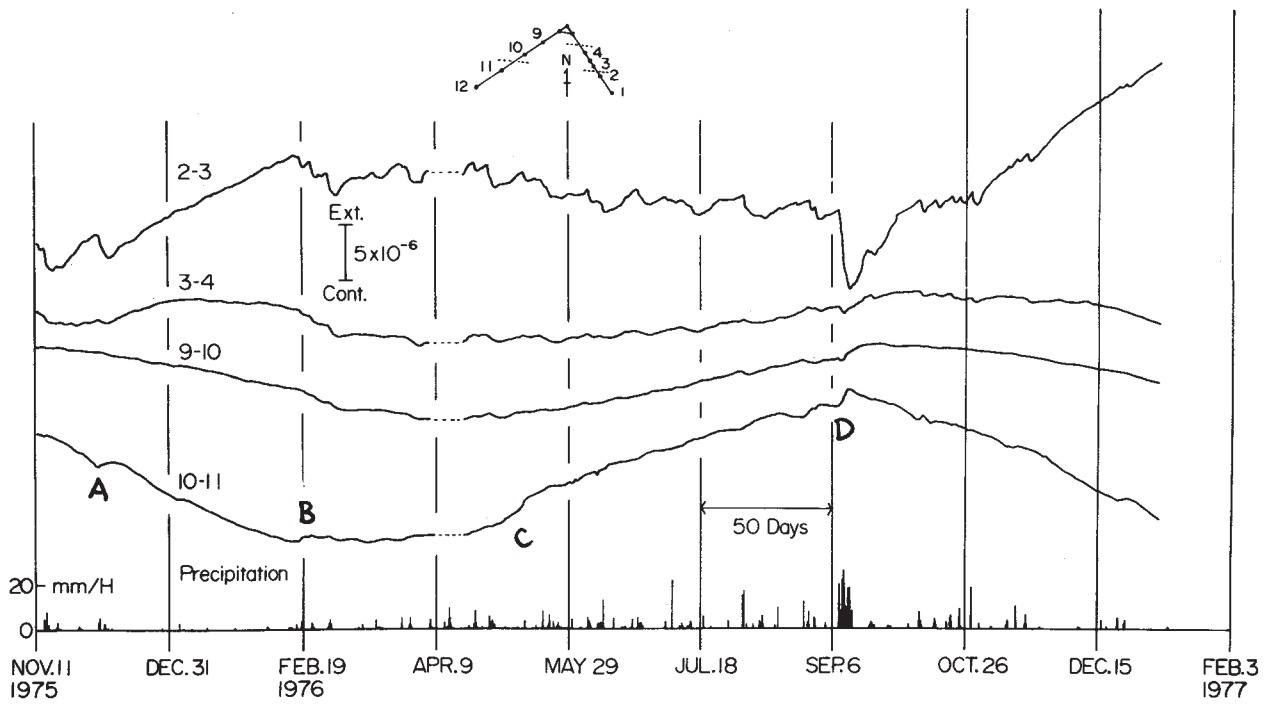
特に次の点が注目される。

1) 本報では観測期間が 1 年を越え、前報に述べたような、破碎帯をはさむ 2 成分の季節的な左ずれ、右ずれの繰返しがはっきりした。図を参照すれば、2 月と 9 月頃を境いとして、冬→夏は右ずれ、夏→冬は左ずれに相当する。この断層は左ずれ断層であるが、これらの破碎帯の永年のなずれの方向と量をいうには、なお数年の観測を要しよう。

2) 前報で述べた降雨時の断層の短期的ひずみ変化、およびそれに伴う断層に沿う地震発生現象も、よりはっきりしてきた。図に示す A ~ D の各点は、この現象の特に顕著な点である。

参 考 文 献

- 1) 尾池和夫・岸本兆方 (1976) : 地震予知テストフィールドとしての山崎断層, 地震予知研究シンポジウム, 83 - 90 頁



第 1 図 山崎断層安富観測坑における伸縮変化と降雨。(2 - 3), (10 - 11) は破碎帯の動き, (3 - 4), (9 - 10) は岩盤の変形を示す。

Fig. 1 Strain change at Yasutomi Observation Tunnel at the Yamasaki fault, and rainfall. (2-3) and (10-11) represent movements of fracture zones, and (3-4) and (9-10) deformation of rock bodies.